

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	残存能力や機能低下を防ぐ支援をしています。残存能力の活用や地域との関りを重視しているが新型コロナウイルスの影響で地域との関りが本年は少なくなっています。	コロナで外出ができなくなったので残存能力を高める支援として、施設の廊下を毎日歩くようにしています。歩く回数などの記録をとりポイント制にして、利用者が興味を持てるように配慮しています。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や地域小学校、又自治会等を通して地域との連携を取っている。同じマンション住民の理解が得られている近隣の小学校との交流が本年はなく利用者にもさみしい思いをさせています。	コロナ前は、地域の小学校の運動会、鑑賞会、6年生を送る会、職場体験など多くの交流があり、利用者も楽しみ、喜んでいましたが、今年はずべて中止になってしまいました。自治会との繋がりも中断しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターを管理者が推進しており銀行や地域での啓蒙活動に取り組んでいる。認知症の理解と共に普通の生活が出来ることを地域に証明している	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響で運営推進会議が開催されいません。電話などで家族には近況を伝えております。	コロナ前は、地域包括センターや自治会関係等の参加を得て年4回は開催していました。しかし、以後は地域包括センターの職員は全く来られず、日にちの設定もできなくなり、家族に情報を知らせる程度になっています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活支援課の定期訪問も本年はなく電話でのやり取りになっています。死新型コロナウイルスの影響で行政も来所を控えている。	コロナ前は、生活保護の利用者の関係で市役所からも来ていましたが、コロナ後は全く来られなくなり、殆ど、電話での連絡になっています。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権の根幹に係る部分と考える。職員も身体拘束の研修を受けたりしている。定期的開催しています。身体拘束廃止をしないケアを実践しています。	身体拘束をしないケアは、基本的な事項であり、行政の指導もあって常にスタッフと意識の共有を図っています。特に、東南アジア出身のスタッフに対しては、基本的なことから細かい点まで指導を密にしています。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1回の職員の研修や内部研修・外部研修を通じて虐待防止や拘束の研修を強化しています。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の8割は生活保護の方で常に生活支援課のワーカが施設に来ていただき、成年後見の話等をお伺いしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者と家族の方に立ち会って頂き契約書・重要事項説明書等を丁寧に説明し、解らないところは丁寧に説明をしている。又生保の方には生活支援課の担当職員に掲示しています			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルスの影響で 面会の機会が利用者家族と利用者及び職員との交流が少なくなっているため電話などを利用して近況を伝えている。	コロナで面会が制限されているため、家族から電話をかけてもらうようにしています。コロナ前よりも電話のかかってくる割合は高いように思います。職員もその際に近況を報告したり、家族の意向を聞いたりしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や定期研修の際に職員の声や又施設の方向性などを話そして職員の声も聴き運営に反映させている。	問題や新たなテーマが生じた際に、職員が集まり話し合いをします。ケアに関する事が多いのですが、その際、問題の解決だけでなく外国人スタッフに対しケアについての技術的な問題の研修もしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の働きやすさや環境作りを真摯に考えながら長く働いていけるようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTでの訓練を主体としながら職員の可能性の確保に努めている。自分の親だったらどうしたいのか？			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会などを通じて交流の機会を増やしている。地域交流の機会を備えています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望・家族の希望等傾聴し本人が何の時が楽しいのか見極めながら運営している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からのアセスメントや要望を聞きながら、家族と一緒に困っていることを解決していく。本人の意向も反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援の方法として安全・快適・安心・又残存機能の能力を活用して頂き、ほめることや感動を一緒に分かち合えるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の家であり職員はあくまでも出来ない部分をサポートする立場にあり尊厳を保持しながらさりげない寄添いをする。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族の来所を促し利用者・家族の意見を吸い上げケアに反映するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	音楽やドラマなど若かりし頃のヒット作品を音楽で流したりして回帰法による記憶のよみがえりをしています。	利用者の介護度が進み、馴染みの場所や店に行けなくなり、昔のドラマを見たり、歌う事で利用者の記憶を読みがえらせる様にしています。また、利用者がはがき大の大人の塗り絵を丁寧に塗って完成させた物に、職員がフォローして一言を添え家族に送っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で支え合う関係が出来ている。仲間意識が強く常に支え合っている。毎日楽しい生活が出来るようにサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族の方がGHに見られ一緒に お世話になっていた他の利用者の方と会話をしたり職員と思い出話をしている。			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のなじみの物を居室に持ち込んでおり 思い出を大切に利用者の思いを尊重している。グループホーム内に置いては利用者の思いの時間を過ごしていただき、自由な時間の使い方をして頂いています。	日常の会話の中から利用者の思いや意向の把握に努めています。困難な場合は昔の話やドラマ歌などを取り入れながら記憶をよみがえらせその頃の世相やどのように過ごしていたかなど会話の中から思いや意向を把握しています。利用者が楽しく過ごしている事を大切にしています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	趣味のことや若かりし頃の世相等を考慮し職員もその時代のことを勉強し会話に幅を持たせられるようにしている。近所の皆様と顔見知りになりいい関係が出来るようにしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントやケアプランを通して又通常のADLの状況を把握し職員間や家族・看護師・医師等と共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する前に家族や本人の意見又職員・医師・看護師等の意見を吸い上げモニタリングを作成し介護計画に反映させている。利用者の希望を聞き取り少しでもその希望に叶うように話し合いケアしています。	介護計画は、ケアマネを中心に、利用者、家族の要望、職員、医師らの意見を十分に聞き、それらを反映させて作成しています。その後もモニタリングを行い、何かあればその都度、何も無い場合は3か月毎に見直しをしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌を活用ADLの事や趣味・嗜好の事等毎日の些細なことにも目を向け楽しい生活が出来るようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一番は利用者の生活を快適に過ごしていただくことだと信じている。その為に笑顔が見えるサポートしていく。意見を聞き生活に反映させる。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や町会長・地域密着した方々の来所もおおく、運営推進会議等皆さんが参加して頂いている。近くの小学校の行事にも積極的に参加しています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なじみの病院に行く方はその関係を重視し病院にそのままかかれるようになっていく。東武塚田クリニックの先生が常時来ていただいています。そのクリニックの新しい先生も当グループホームに来ていただいたりしています。	利用者や家族の希望を重視していますが、現在は全員事業所の協力医に月2回往診を受けています。協力医が毎日来所して受診予定の利用者以外の発熱などの対応をして貰えるので事業所にとっても安心です。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は病気や感染症・その時々流行しているもの(ノロウイルス・インフルエンザ等)の予防の仕方等の説明をしている。消毒の基本である手指の洗い方等実践に基づいた指導を頂いています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は提携先の病院に搬送されることが多く以前の病歴等カルテがあるため関係が良好であり、ワーカからの説明や医師からの説明等にも家族と共に職員が同席している。訪問診療の紹介状などで入院先もスムーズに行っています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族・医師・職員等で話し合い医療行為がない場合は終末期をGHで迎えてもらう。年々ADLの低下と認知症の進行又高齢になることにより終末期や看取りの回数が増えています。殆どの方が当グループホームでの終末を希望しています。そして当ホームで看取っています。	事業所としては終末期をここで迎えたいと希望する人が多いので、希望に沿って看取りを行っています。しかし、クスリを使っても痛みを耐えられない人に対しては、他の利用者のことを考え、対応できない面もあります。利用者が最後、穏やかに迎えられるように、家族関係にも配慮した取り組みを行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	軽微なものは職員が手当をするが、基本的には医師に連絡し判断を仰ぎながらの救急手当や救急搬送になります。家族に報告することを忘れないようにしています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行い一回は消防所も立会い通報訓練・避難訓練等を行っています。特に水難訓練にも力を入れ、当GHが入居しているマンションの住民には非常時に協力したいとの声を頂いております。垂直避難にそなえ他の階の方とも友好に話し合いをしています。	年2回、防災訓練を行い、1回目は消防署員の立ち合いの基、通報訓練、避難訓練を行っています。特に水害に備えた訓練に力を入れ、利用者や備蓄を2回に上げることを確認しています。自治会の協力で住民アンケートを行い非常時の協力の了解を得ています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は一人部屋のため、プライバシーが保たれている。生活歴が個々により違うためその生活歴に寄り添うように職員は勉強している。	プライバシーと人格を尊重した対応をしています。職員に外国人が多いので、居室に入る時は必ず声をかけてから入る事、人に知られたくない事は守る。羞恥心に配慮した言葉かけなど丁寧に指導し、利用者一人ひとりに寄り添った支援をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	合議性や本人の意見を吸い上げ日常生活のケアに働きかけている。毎日の生活に変化を付けマンネリしない工夫をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	GHは利用者の家であり職員はあくまでのさりげないサポートをすることと思っている。職員がですぎることは良くないし自尊心を傷つけないさりげないサポートを致しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的にかットや買い物時のメイク等日常的におしゃれを楽しみ洋服等清潔感のある物又本人の好きなものを選んで頂いて着ている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べるだけの食事だけでなく見た目や定期的に利用者の意見を尊重し一緒に料理しながら食事している。利用者の残存能力を活用するために利用者と一緒に料理をしたり食事と一緒にしています。	食事が楽しめるように利用者の見えるところで職員と利用者が一緒に調理しています。また、利用者の希望を入れ、お節句にはエビフライを巻いて鯉のぼりに見立てた、ロールサンド、敬老会では、うな丼を取り寄せ、行事食は見た目も楽しめています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常的に水分摂取はこまめをお願いしている。又食事も3食プラスおやつ等、そして利用者の嗜好を考えたメニューも提供している。季節のものを食する等四季を感じるようにしています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアをして頂いています。入れ歯の調整や歯槽膿漏の防止等訪問歯科医と協議しています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期誘導を心掛け失敗の内容にトイレ誘導を行っています。誘導の際には羞恥心を考慮して耳元で小さい声でお話をしています。	排泄の自立に向け、パンツ、リハビリパンツで過ごし、トイレでの排泄支援を行っています。チェックリストを使い、個々の排泄パターンを把握して、排泄パターンが昼夜逆になった利用者に対しても、丁寧に対応して夜間しっかり睡眠がとれるように支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢になればなるほど便秘になりやすいので水分摂取をこまめに行っている。牛乳等も便秘によいので飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人での入浴を楽しんで頂いているが、どうしても風呂の中は目を離すと危険な場所でもあるので職員が必ず付いて見まもりと利用者が洗えない場所をサポートしている。喜んでる利用者さんも多く鼻歌を歌いながら入浴する利用者さんもいます。	入浴の回数は週二回を原則としています。ゆっくり入浴を楽しんでもらうために、車椅子利用(4名)の人と、自立して入れる人(5名)と日にちを分けて行っています。季節に合わせてしょうぶ湯、ゆず湯も取り入れ楽しんでいきます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムに合わせての介護を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が管理をしている。誤薬の危険性を回避したいため、医師や薬局に方に効能などを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所仕事・掃除・洗濯・買物等出来るところは一緒に行っています。又一声かけることによりありがとうございますの感謝の言葉を忘れないように接しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか新型コロナウイルスの影響で外出の機会少なくなっています。早くこのコロナウィルスが収束して散歩等に出かける機会が多くなるようになりたいと思っています。	以前は散歩なども積極的に行っていましたが、コロナの影響で外出の機会も少なくなっています。家族の協力で食事などにも出かけていました。今はベランダに出て花の鑑賞や小学生の通学の様子を見たり、早くコロナが収束し、外出する機会を望んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族に管理をして頂き家族が見えた時に請求等をしている。家族と利用者が一緒に管理の状況と話している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的到手紙を兄弟でやり取りしている利用者もおります。又電話を使い子供と会話している人もいます。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今は新型コロナウイルスの為身体を動かす機会が少なくなったが、体操や又菜の花体操廊下の散歩などを多くして身体的にも心地よい空間を作るようにしている	古い建物をリフォームして壁の塗替え、張替えで全体的に明るく利用者が手伝い、掃除も行き届き、清潔な住み心地の良い空間になってます。利用者が製作したクリスマスツリー、行事などの写真も飾っています。写真を見て思い出話等、利用者同士の会話も弾んでいます。運動不足解消のため、ポイント制を設け、楽しんで廊下の散歩、体操など、取り組んでいます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間等で気の合った利用者で会話を楽しんでいる。又気の合った人同士で自分の部屋に行き会話を楽しんでいる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや仏壇など以前の生活を変わらない様に、馴染みのものを居室に持たせたりして快適に過ごしています。	利用者が使い慣れた物や仏壇など馴染みのものを持ち込み快適に過ごせるようにしています。また普段着慣れた物、大切にしている衣類なども持ち込んでもらい安心して生活できるようにしています。中には思い出すと帰りたいので物を少なくしてほしいという家族もいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援と残存能力の活用がGHの使命と考えています。笑顔を最後まで提供できるようにしています。			